

断熱クールバインダー

ホルムアルデヒド放散等級

F☆☆☆☆

内装仕上げの制限なし

特長

●優れた断熱性

顔料として特殊パールンを使用した熱伝導率の低い中塗材です。遮熱タイプの上塗材と組み合わせることで、更に太陽光からの温度上昇を緩和することができます。また内装塗料の下塗りとして用いた場合、室内の結露を抑制する効果が期待できます。

●遮音性

防音効果により騒音などを低減することが可能です。

●幅広い適応下地

特殊反応硬化樹脂の配合により、各種下地への密着性に優れます。

●可とう性

塗膜は可とう性を有するため、ヘアクラックの充てんや施工後のヘアクラックに追随し、雨水などの浸入を防ぎます。

●優れた作業性

ローラー作業において材料の跳ね返りが少なく、また塗り継ぎムラが出にくくなっています。また水系の1材型ですから、取り扱いも容易です。

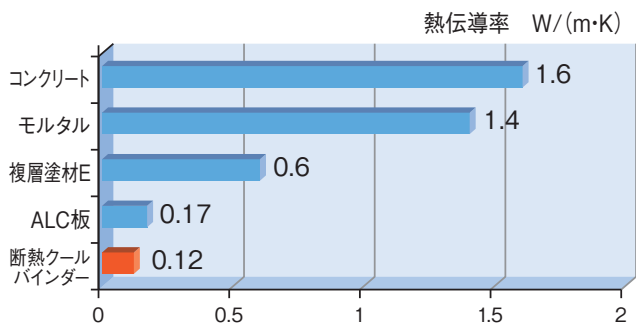
●安全性

低臭で、シックハウス症候群の原因となるホルムアルデヒドの放散等級はF☆☆☆☆（使用面積に制限無し）で安全です。また、環境ホルモンは含んでいません。

●防藻性・防かび性

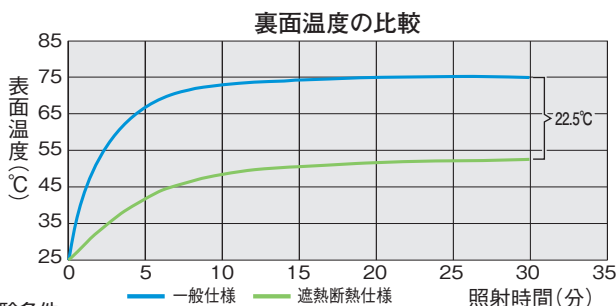
藻やかびなど微生物の繁殖を防ぎ、美観を保ちます。

性能データ



裏面温度測定(遮熱)

塗膜表面に60Wのレフランプを10cmの距離で照射し、裏面の温度を経時でセンサー測定。



試験条件

素地：カラー鋼板

- ・一般仕様 エポマイルド（赤さび色）+ワイドエポールSi（色:N-6）
- ・遮熱断熱仕様 エポクールワイド+断熱クールバインダー（塗付量:1.5kg/m²）+ワイドエポールSiクール（色:N-6）

用途

- 用途 内外壁の塗替え、及び新設
- 適合既存塗膜 リシン、吹付タイル、弾性タイル、単層弾性、スタッコ、EPの活膜（2材形ふっ素樹脂塗料、シリコン樹脂塗料、弾性スタッコの場合は施工できません）
- 適用下地 コンクリート、モルタル、PCパネル、ALCパネル、窯業系サイディングボード、鉄部及び金属部

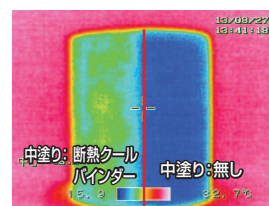
商品体系

容量:10kg/石油缶

	品質	規格
低温安定性	合格	塊がなく組成物の分離・凝集がないこと。
初期乾燥におけるひび割れ抵抗性	合格	ひび割れがないこと。
付着強さ [N/mm ²]	標準状態	0.7
	浸水後	0.6
温冷繰返し	合格	試験体の表面にひび割れはがれ及び膨れがなく、かつ著しい変色及び光沢低下がないこと。
透水性 B法 [ml]	0.4	0.5以下
耐衝撃性	合格	ひび割れはがれ及び著しい変形がないこと。
ひび割れ充てん性	合格	基板の溝の部分に、塗膜のひび割れ及び穴がないこと。
耐候性 A法	合格	ひび割れ及びはがれがなく、変色の程度がグレースケール3号以上であること。
可とう性	合格	ひび割れがないこと。

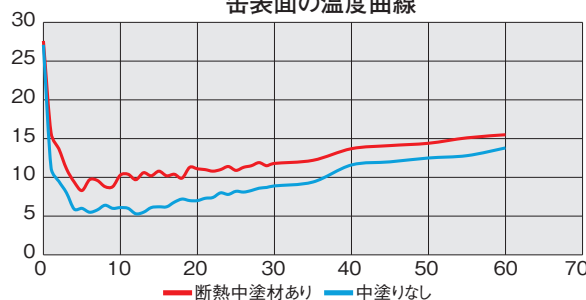
(JIS A 6909 可とう形改修用仕上塗材Eに準拠)

表面温度測定(断熱)



・金属容器に氷水を入れ、缶表面の温度変化を測定。

缶表面の温度曲線



下塗り：エポクールワイド
中塗り：断熱クールバインダー
上塗り：カベクールSi（白）

■ (外壁) 塗替

工程	塗材名	割合 (重量比)	標準所要量 (kg/m ²)	塗回数	間隔時間 (23℃)	施工方法	
1	下地調整	●既存塗膜の浮き・膨れ・脆弱部などはサンダー・皮スキなどを用いて除去する。●汚れ・じんあい及びチョーキングなどの劣化塗膜を高圧水洗(水圧15MPa)以上で除去する。●水洗い面を乾燥させる。●既存塗膜の段差を同一模様になる塗材で復元する。●シーリング面は、予めラフトン逆プライマーを塗装する。					
2	下塗り	断熱クールバインダー 清水	100 1~5	(ローラー)1.0~1.5 (吹付け)1.5~2.0	2	(工程内)6時間以上 16時間以上	パターンローラー、ラフトン1号ガン (口径 4~6mm 吹付圧 0.4~0.6MPa)
3	上塗り	カベクールSi 清水	100 5~15	0.3~0.4	2	(工程内)4時間以上 (最終養生)24時間以上	はけ、ウールローラー、 エアレス

適合上塗材: カベクールSi、セラビューレCOOL、ワイドエポーレクールシリーズ、1液ワイドシリコン遮熱α、ワイドシリコン遮熱α、ワイドフッソ遮熱α

■ (外壁) 新設

工程	塗材名	割合 (重量比)	標準所要量 (kg/m ²)	塗回数	間隔時間 (23℃)	施工方法	
1	下地調整	●下地は十分に乾燥させる(含水率10%以下、pH10以下)。●下地のレイタンス、エフロレッセンス、汚れは除去し、巣穴、不陸、目違いなどは予めラフトンフラーなどのセメント系下地調整塗材にて補修する。					
2	下塗り	EMクールシーラー 清水	100 0~5	0.10~0.12	1	3時間以上	はけ、ウールローラー、 エアレス
3	中塗り	断熱クールバインダー 清水	100 1~5	(ローラー)1.0~1.5 (吹付け)1.5~2.0	2	(工程内)6時間以上 16時間以上	パターンローラー、ラフトン1号ガン (口径 4~6mm 吹付圧 0.4~0.6MPa)
4	上塗り	カベクールSi 清水	100 5~15	0.3~0.4	2	(工程内)4時間以上 (最終養生)24時間以上	はけ、ウールローラー、 エアレス

適合下塗材: EMクールシーラー、クールシーラーワイド、クールシーラーS

■ (鉄部及び金属部)

工程	塗材名	割合 (重量比)	標準所要量 (kg/m ²)	塗回数	間隔時間 (23℃)	施工方法	
1	下地調整	●ディスクサンダーなどの電動工具を主体とし、スクレーパー、ワイヤブラシ、研磨布、皮スキなどの手工具を併用して、さび、黒皮、じんあい、汚れ、劣化塗膜などを除去する。●油脂類は溶剤拭きで除去する。					
2	下塗り	エポクールワイド (無希釈)	100	0.12~0.16	1~2	16時間以上	はけ、ウールローラー、 エアレス
3	中塗り	断熱クールバインダー 清水	100 1~5	(ローラー)1.0~1.5 (吹付け)1.5~2.0	2	(工程内)6時間以上 16時間以上	パターンローラー、ラフトン1号ガン (口径 4~6mm 吹付圧 0.4~0.6MPa)
4	上塗り	カベクールSi 清水	100 5~15	0.3~0.4	2	(工程内)4時間以上 (最終養生)24時間以上	はけ、ウールローラー、 エアレス

※塗替において、鉄部の露出が少なく、既存塗膜を活膜として存続できる場合は、下塗りを省略できます。

適合下塗材: EMエポクール、エポクールワイド、ワイドラスノンCOOL

施工上の注意事項

- 気温5℃以下や湿度85%以上の場合は、施工を避けてください。
- 降雨・降雪・結露が予想される時、強風(風速5m/s以上)の時などは、施工を避けてください。
- 塗替面は、十分に乾燥していることを確認してから施工してください。
- 下地の巣穴、クラック不陸、目違いなどは予め樹脂モルタルまたはセメントフラーなどで補修し、平滑にしてください。(ALCパネルにはスズカブラサフが適します。)
- 塗膜の裏面に雨水がまわり込まないよう、シーリングサッシ廻りなどとの取り合い部の防水処理は十分に施してください。
- 使用前に十分かくはんし、均一にしてから施工してください。
- 強溶剤系の上塗りはリフティングを発生する可能性があるため、施工は避けてください。
- 仕様の数値は標準のものです。下地の状態、施工条件などにより、多少異なることがあります。
- 既存塗膜が活膜で、光沢が残存する場合は、事前に附着性試験を行なってください。
- 新設施工などにおいて吸い込みが大きい下地の場合、下地からの泡による置換発泡を発生することがありますので、予めサミブラなど下塗材を施工してください。ぜい弱な下地にはワイドシーラーEPO、ラフトンエポキシシーラーをご使用ください。
- シーリング材への直接施工は、塗膜に割れ、剥がれ、よれを生じることがあるため行わないでください。やむを得ず施工を行う場合は、必ずシーリング材が十分に硬化していることを確認の上、予めラフトン逆プライマーを施工してください。(ポリサルファイド系シーリング材の場合は2回塗りしてください。シリコン系及びポルチム系シーリング材へは、施工を避けてください。)
- スプレーミストや臭い・蒸気などが、居住者・隣家・車輦などに飛散しないように留意し、十分な養生を行なってください。
- 標準所要量を厳守してください。膜厚が薄い場合、所定の性能が得られません。
- 各工程の間隔及び最終養生は、所定の時間を厳守してください。
- 断熱クールバインダー施工後は養生時間を十分にとり、塗材が乾燥していることを確認してから上塗りを施工してください。特に冬場など低温時の施工や上塗りに溶剤系塗料を施工する際は、養生時間を24時間以上としてください。
- 下地調整後の表面強度は、0.5N/mm²以上必要です。撥水材塗装面・脆弱下地などの場合は、最寄りの事業所にお問い合わせください。
- 次のような下地の場合、蓄熱や水分などの影響でパネルの変形や塗膜のふくれ、はがれを生じることがありますので、十分にご注意ください。
☆軽量モルタル、ALCパネル、窯業系サイディング発泡ウレタンなどを使用した壁断熱工法の外壁
☆上述の素地に弾性リシン弾性スタッコ、複層弾性などで仕上げた既存塗膜
- このカタログに記載以外の下地や仕様で施工される場合は、塗膜欠陥を起こすことがありますので、使用前に最も寄りの事業所にお問い合わせください。

取り扱い上の注意事項

- 取り扱い中は、皮膚に触れないようにし、必要に応じて保護具(防護マスク・頭巾・保護めがね・長袖の作業着・えり巻きタオル・保護手袋・前掛けなど)を着用してください。
- 皮膚に付着した場合には、直ちに多量のせっけん水で洗い落とし、痛みまたは外観に変化があるときは、医師の診察を受けてください。
- 蒸気・臭いなどを吸い込んで気分が悪くなったときには、空気の清浄な場所で安静にし、医師の診察を受けてください。
- 目に入った場合には、直ちに多量の流水で洗い、できるだけ早く医師の診察を受けてください。
- 誤って飲み込んだ場合には、直ちに医師の診察を受けてください。
- 取り扱いは、手洗い・うがい・鼻くう洗浄を十分に行なってください。
- 容器から取り出すときは、こぼれないようにしてください。もしこぼれた場合には、布やウエスで拭き取るか、砂などを散布した後、処理してください。
- 容器は密栓し、40℃以下で子供の手の届かない一定の場所を定めて保管してください。特に、雨水や直射日光のあたる場所・高温多湿の場所・潮風の当たる場所・凍結の恐れのある場所などでの保管は避けてください。
- 捨てるときには、産業廃棄物として処分してください。
- 本来の用途以外での使用は避けてください。

- ※溶剤系塗料を使用する時は、以下の点についてもご注意ください。
- 引火性の液体ですので、火気のあるところでは使用しないでください。
- 吸入すると有機溶剤中毒を起こす恐れがあるので、換気をよくし、蒸気・スプレーミストを吸い込まないよう必ず保護具を着用してください。
- 取扱い作業場所には、局所排気装置を設けてください。
- 取扱い中は皮膚に触れないようにし、必要に応じて以下の保護具を着用してください。
有毒ガス用防毒マスクまたは送気マスク、頭巾、保護めがね、長袖の作業着、えり巻きタオル、保護手袋、前掛けなど
- 臭いは食料品、飲食物、衣類などにうつる場合があるので、作業場所から遠ざけるか養生するなど、十分にご注意ください。
- 容器から取り出す時には、こぼれないように注意してください。もしこぼれた場合には、布で拭き取って、水の入った容器に保管してください。
- 火災時には炭酸ガス消火器、泡消火器、または粉末消火器を用いて初期消火をしてください。
- 詳細な内容が必要なおときには、安全データシート(SDS)を参照ください。



営業本部 〒510-0101 三重県四日市市楠町小倉1058-4 ☎059-397-2187 FAX 059-397-6191
 研究開発本部 〒510-0851 三重県四日市市塩浜町1 ☎059-346-1116 FAX 059-346-4585

札幌支店 ☎0133-60-6311 東京支店 ☎03-5661-2211 名古屋支店 ☎052-411-1255
 大阪支店 ☎072-862-1601 広島支店 ☎082-277-1116 四国支店 ☎0877-24-4621
 九州支店 ☎092-938-0071

取扱店